

今後、求められる社会の担い手づくり

新学習指導要領がめざすもの

「生きる力」をはぐくむこと

知・徳・体のバランスのとれた力

知 確かな学力のもと、創造力を身につけ、問題解決に立ち向かう力を育成する

徳 人とのつながりを大切にし、他を思いやるなど豊かな人間性を養う

体 自らの健康を考え、たくましく生きるための体力を育成する

絆

学習指導要領の全面实施に向け、第2次学校教育金沢モデルの方向性をしっかりと見極め、実践していく方策を打ち出すために構築戦略会議・実践本部会議・ワーキンググループが立ち上げられました。

新学習指導要領に対応した第2次学校教育金沢モデル

平成21年度から3回にわたり構築戦略会議を開催し、各分野の専門的見地でのご意見をもとに、金沢の教育が目指すべき方向性の示唆をいただき、第2次学校教育金沢モデルを構築しました。そして、同時に実践本部会議を開催し、構築戦略会議の示唆を受けながら、学校や家庭・地域・行政等の実態を踏まえつつ、金沢「絆」教育をはじめとする第2次学校教育金沢モデルの具現化を図るとともに、具体的な教育活動を協議してまいりました。

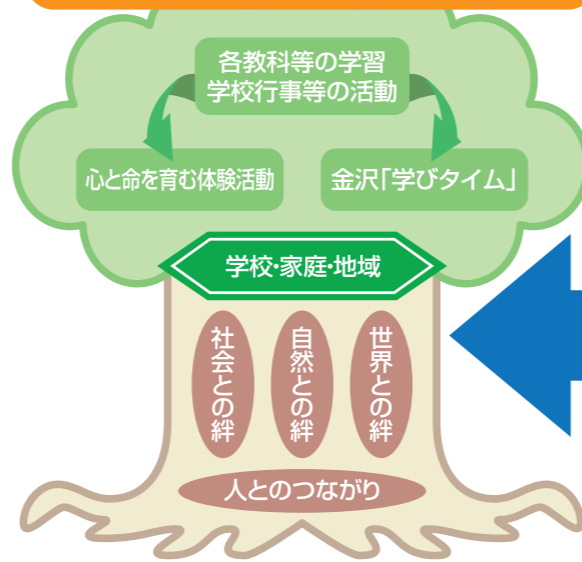
そして、実践本部からの6名の先生方を加えた総勢22名の教職員の方々によるワーキンググループを立ち上げ、「金沢の子どもたちに学ばせたいことは何か」を視点に学習内容を洗い出し、検討を重ね、「金沢」を学ぶ時間、金沢「学びタイム」を設定し、その指導資料集の完成にいたしました。

平成23年度より総合的な学習の時間を中心に各小・中学校で実践し、金沢に生まれ育った児童生徒が金沢のことを知り、考え、将来の自己の生き方につなげて欲しいと考えています。



全市児童生徒あいさつの日

金沢「絆」教育の基本的考え方



人と人とのつながりを基盤とし、社会・自然・世界などとの関わりを深め、自他を共に認め合い、命あるものを大切にする豊かな心を育むとともに、金沢に誇りをもつ子どもを育成することを目的に、平成21年度よりこれまでの3つの柱に加え、取り組んでいます。

豊かな読書・体験活動の充実

読書は、感性を磨き創造力を豊かにするものであり、自然体験や社会体験は、子どもの成長に重要な影響を与える。

そこで、学校図書館等の読書施設を活用した活動や身近な環境を生かした体験を学校教育の中で行うことが大切である。



ユネスコスクールと持続発展教育（ESD）の推進

持続発展教育（ESD）

持続発展教育（ESD）は、内容的には新しい教育ではなく、例えば、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、開発など、既に学校で取り組んでいる様々な教育が包含されています。大切な視点として、個別分野の取組に対して、持続可能な構築という共通の目的を与え、具体的な行動の展開に明確な方向付けをするとともに、それぞれの取組をお互いに結びつけることによって、既存の取組の一層の充実・発展をめざすものです。その中で、他の学校とのネットワークを築きながら、「今、私たちのしなければならないこと」を考え、地域レベルを含めた国内的な課題と国際的な課題とを結びつけ、グローバルな視野でその解決を考察することを通して、持続可能な未来の構築と現実的な社会転換のために必要な価値観、自分の行動やライフスタイルを考える学習です

◆ 第2次学校教育金沢モデル Q&A ◆

Q 金沢「絆」教育の一つである心と命を育む体験活動について具体的に教えてください。

A 大きく2点あります。一つ目は、いくつかの学校では、中学校1年生を対象に、円滑に中学校生活が送れるように宿泊体験を実施しています。二つ目は、児童・生徒会が中心となり、年間3回学校・保護者・地域の三者が「絆」を意識した活動を展開しています。

Q 小学校3・4年生では、総合的な学習の時間が35時間になりますが、金沢「学びタイム」を上手に取り入れていく方法はありますか。

A これまでの学習をすべて35時間の中で行うことは、学習が深まりません。まずは、他教科との関連の中で、学習できることを洗い出し、精選する必要があります。また、金沢「学びタイム」との融合を図れる内容に編成していく方法も考えられます。

Q 偉人教育をすすめていく上で、どのようなことに留意すればよいですか。また、金沢の偉人とはどのような人ですか。

A まずは、学習対象を絞ることが大切であり、次に、調べる方法を考えてみましょう。本、インターネットだけでなく、関連施設等の見学も有効な手だてとなります。金沢の偉人とは、世界や日本だけでなく、地域の文化や教育、産業の発展に尽くし、優れた功績を残された金沢にゆかりのある先人を意味しています。

Q 平成24年度に向けて、金沢市の小中一貫英語教育はどのようにになりますか。

A 小学校では、6年生に適した新たな教材を作成することとし、中1教科書は使用しません。また、中学校では副読本「This is Kanazawa」をさらに活用し、金沢のことを英語で発信する力を育てていきます。